

千代田都市づくり白書

〔2〕データ・資料編

平成31（2019）年3月 【抜粋】

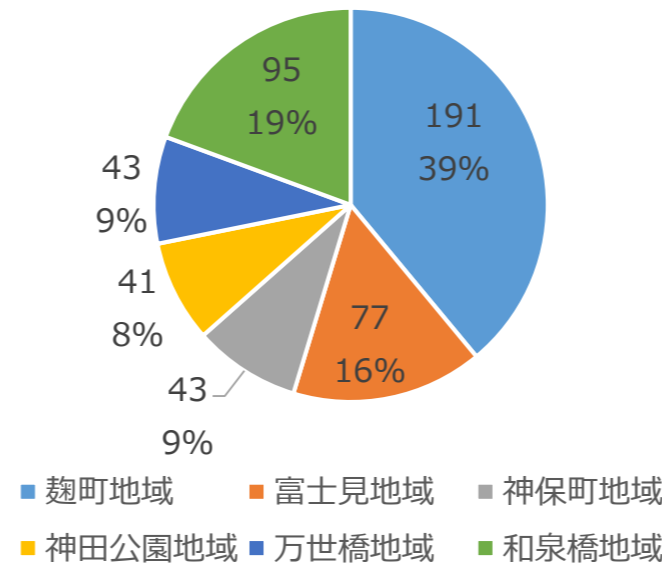
8 分譲マンションの実態 ～麴町地域では「旧耐震期」竣工マンションが5割を超える～

2018（平成30）年に実施した、（公財）まちみらい千代田の「分譲マンション実態調査」によると、分譲マンションは麴町出張所地域に最も多く建っており、棟数で約40%、戸数では約33%を占めています。建築年代を見ると、和泉橋地域で、2002（平成14）年以降に建てられたマンションが多くなっている一方で、麴町地域はいわゆる「旧耐震期」の分譲マンション棟数が約5割を占めています。

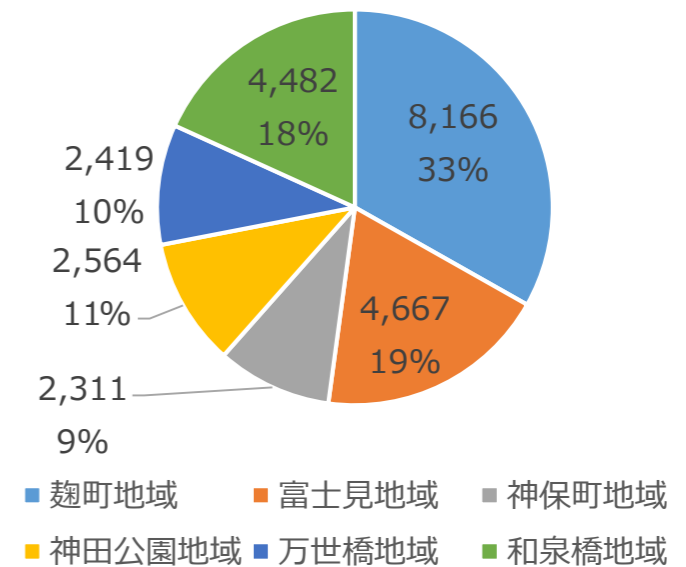
● 分譲マンション立地状況 （公財）まちみらい千代田分譲マンション実態調査（令和元年）

	棟数(棟)	戸数(戸)	平均戸数(戸)
麴町地域	191	8,166	42.8
富士見地域	77	4,667	60.6
神保町地域	43	2,311	53.7
神田公園地域	41	2,564	62.5
万世橋地域	43	2,419	56.3
和泉橋地域	95	4,482	47.2
合計	490	24,609	53.8

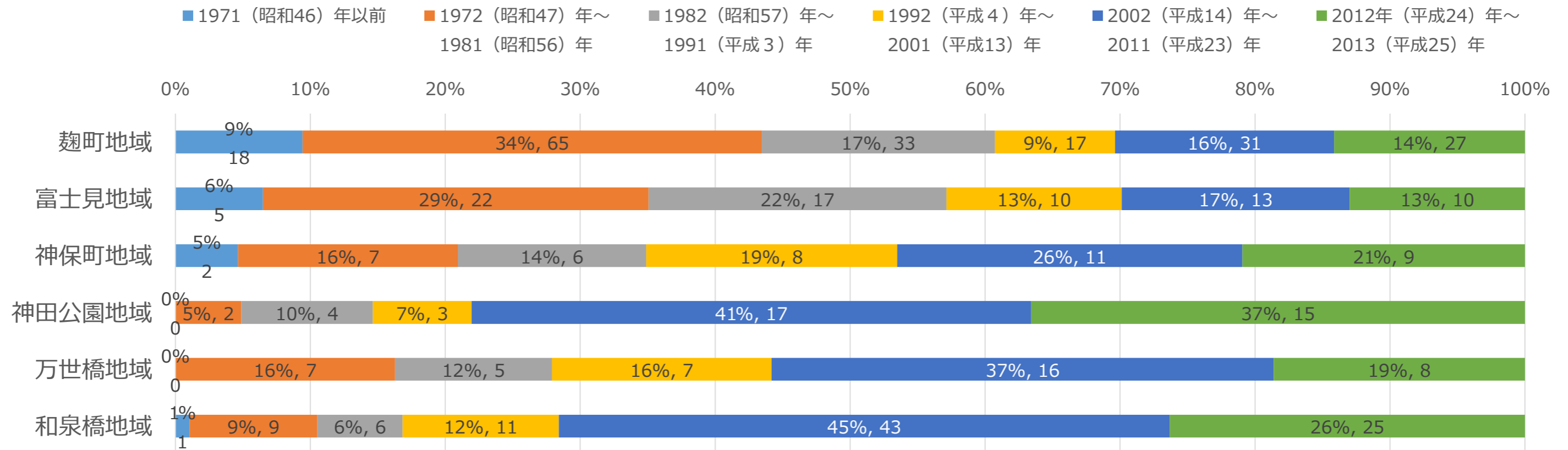
分譲マンション棟数構成比



分譲マンション戸数構成比



● 地域別・建築年代別分譲マンション棟数 （公財）まちみらい千代田分譲マンション実態調査（令和元年）



2 公園の分布と一人当たり面積

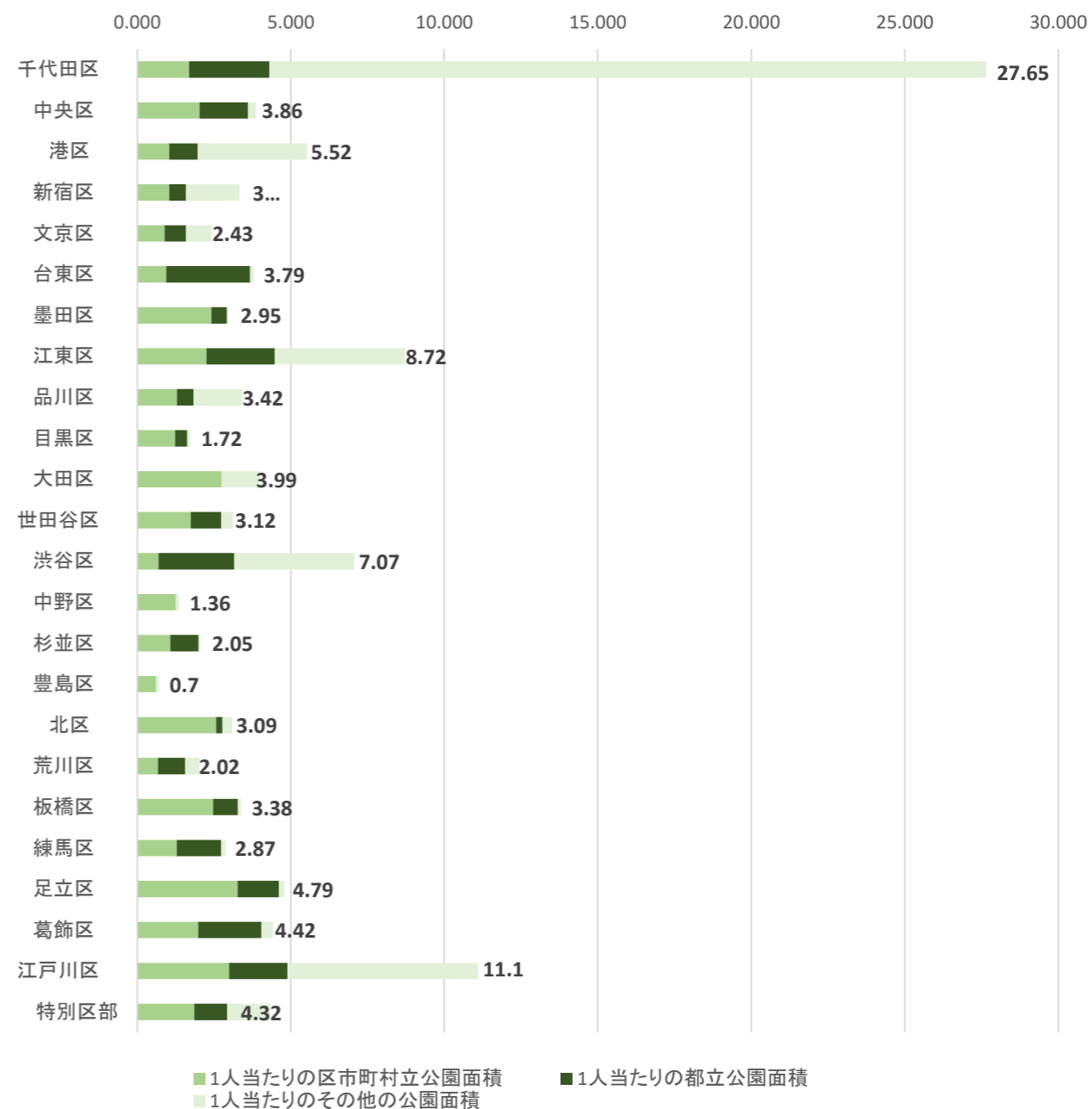
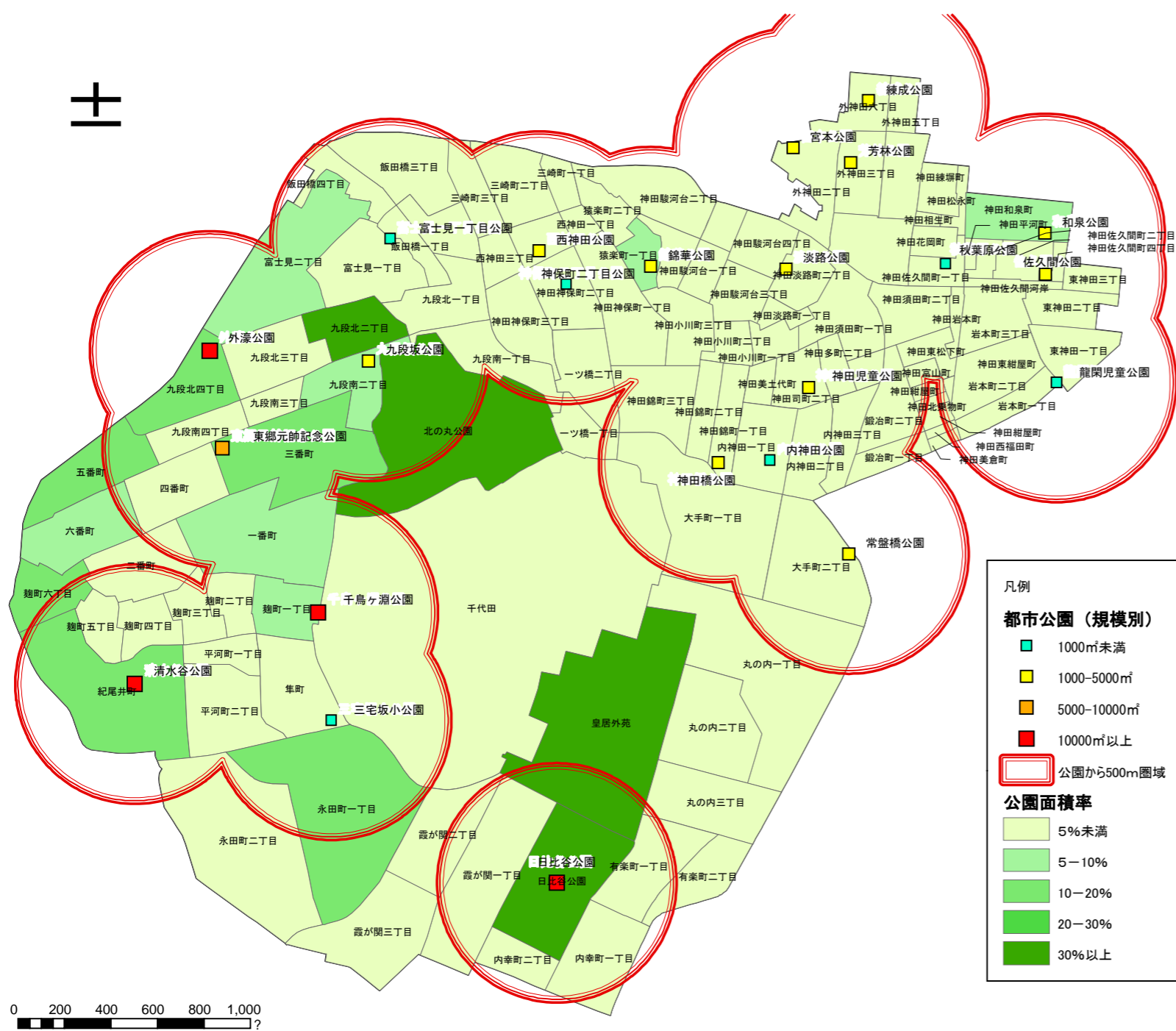
～区民一人当たり公園面積は23区で1位～

北の丸公園や日比谷公園の立地する町丁目では、公園面積率（公園面積／町丁目面積）が30%以上を超えている地区があります。都市施設としての公園から500m圏域とした場合、番町地域の一部などでカバーできていない箇所が存在しています。

また、国民公園等大規模な公園面積があることから、1人あたり公園面積は23区では群を抜いて高くなっていますが、区立公園だけを比較すると他の23区と同程度の面積となっています。

● 規模別都市公園の配置、公園面積率、公園から500m区域 千代田区調査

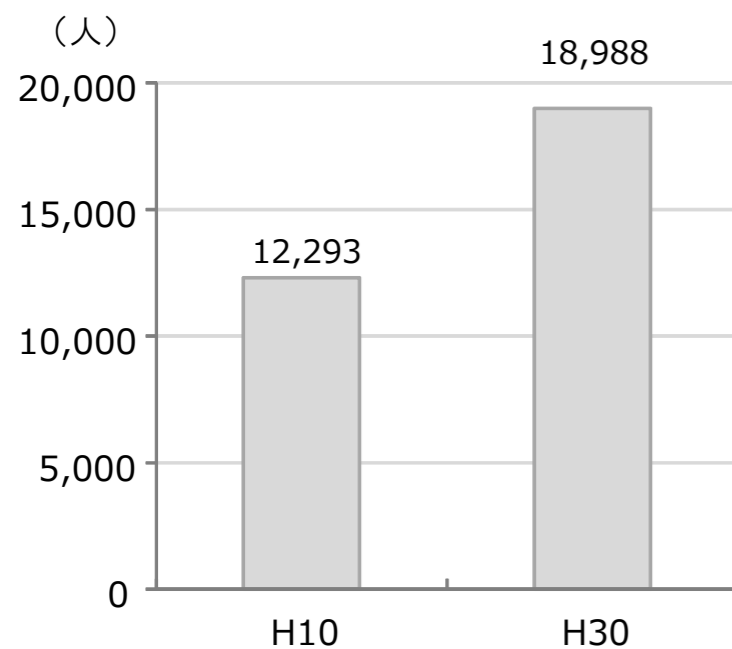
● 一人当たり公園面積の比較 特別区の統計2018



● 居住

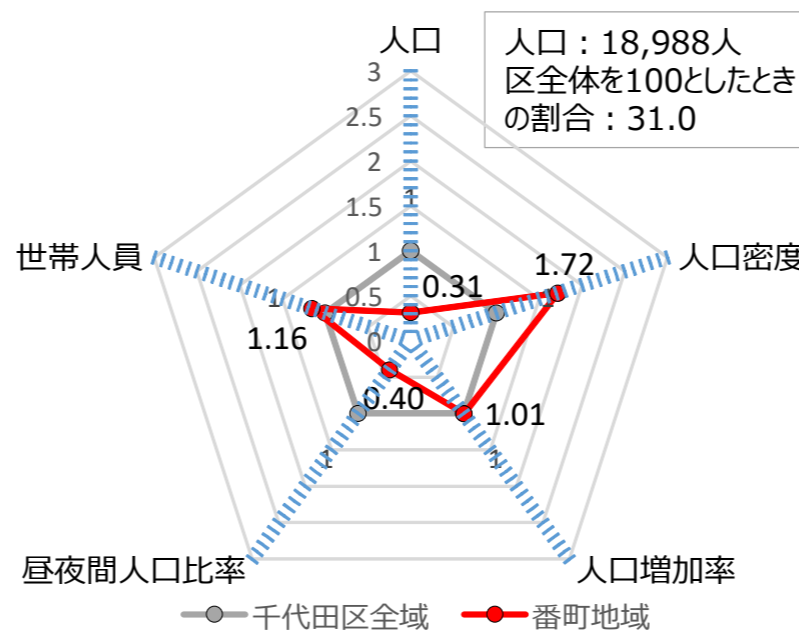
人口推移（各年1月1日） 住民基本台帳

1998（平成10）年からの20年間で人口は約1.5倍に増加しました。



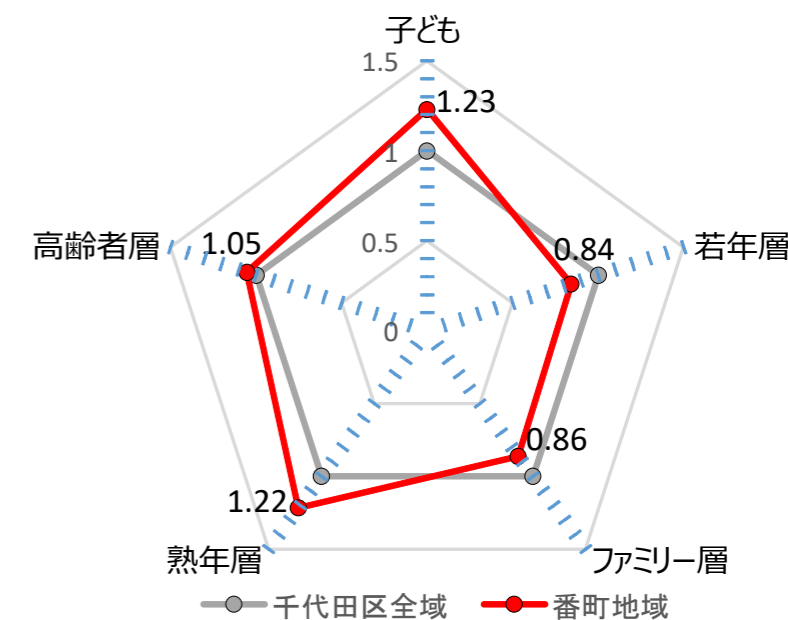
人口等 国勢調査（平成27年）／土地利用現況調査（平成28年）／住民基本台帳（平成30年1月1日）

千代田区全域と比較して、人口密度が高い一方、昼夜間人口比率が低くなっています。



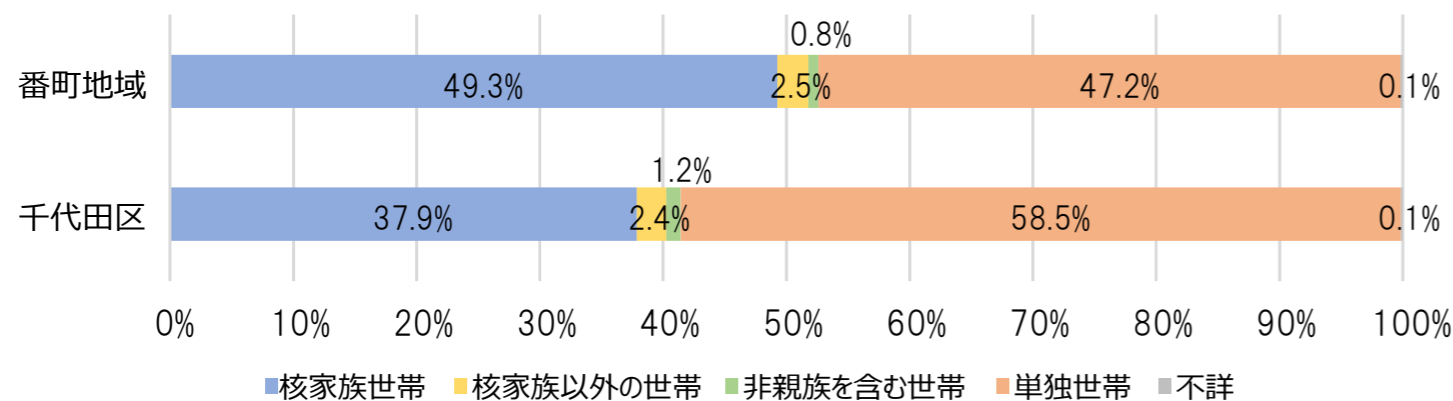
年齢人口比率 住民基本台帳人口

千代田区全域と比較して、子ども・熟年層が多い一方、若年層・ファミリー層が少なくなっています。



家族類型別世帯数の推移 平成27年国勢調査

千代田区全域と比較して、核家族世帯の割合が高い一方、単独世帯の割合が低くなっています。



在住者の声 千代田区のまちづくりアンケート調査（平成30年6～7月）

▼ お気に入りの場所・好ましくないと感じる場所

千代田区内のお気に入りの場所で番町地域と回答した人の割合：18.2%

- ・「大手町・丸の内・有楽町・永田町地域」「富士見地域」に次いで第3位
- ・主な理由は、「住みやすさ」「落ち着いた街並み」「千鳥ヶ淵や皇居周辺の豊かな自然・歴史」など

千代田区内の好ましくないと感じる場所で番町地域と回答した人の割合：2.0%

- ・「神保町地域」「大手町・丸の内・有楽町・永田町地域」と同率で最も低い

▼ 在住者（番町地域）のまちづくりに関する主な意見

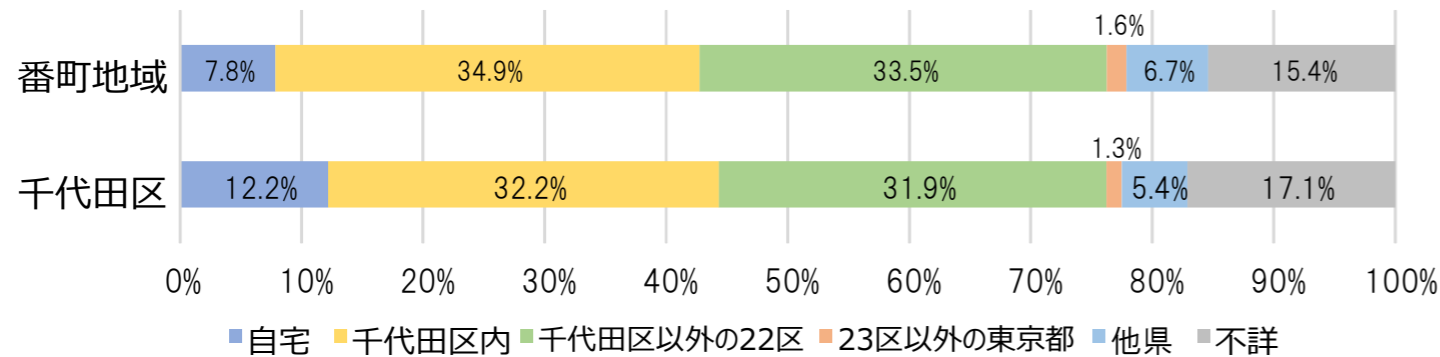
居住	「住みやすさや落ち着いた街並みの維持」「日用品雑貨店の不足」「地域交流の促進」「マナー（自動車・自転車・喫煙・皇居ランナー）の向上」など
基盤	「歩道・自転車専用道路・バイク専用道路の整備の推進」「公共交通機関のサービス向上」など
環境	「憩いの場や遊び場の不足」「緑の不足」「濠の水質改善」など

● 通勤・通学／交流・滞在

通勤人口・通学人口（平成27年） 経済センサス

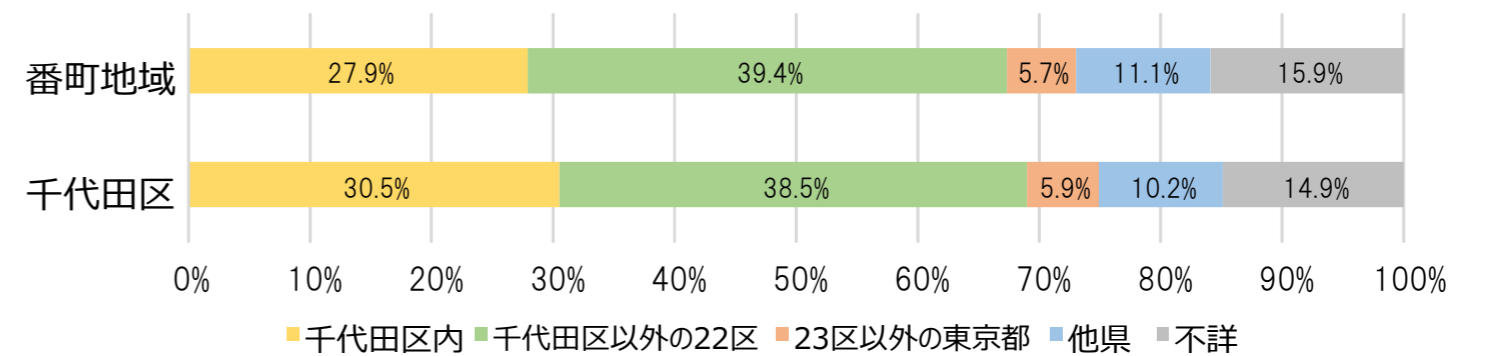
【通勤人口内訳】

千代田区全域と比較して、在宅勤務者が少ない一方、区内や他区への通勤人口が多くなっています。



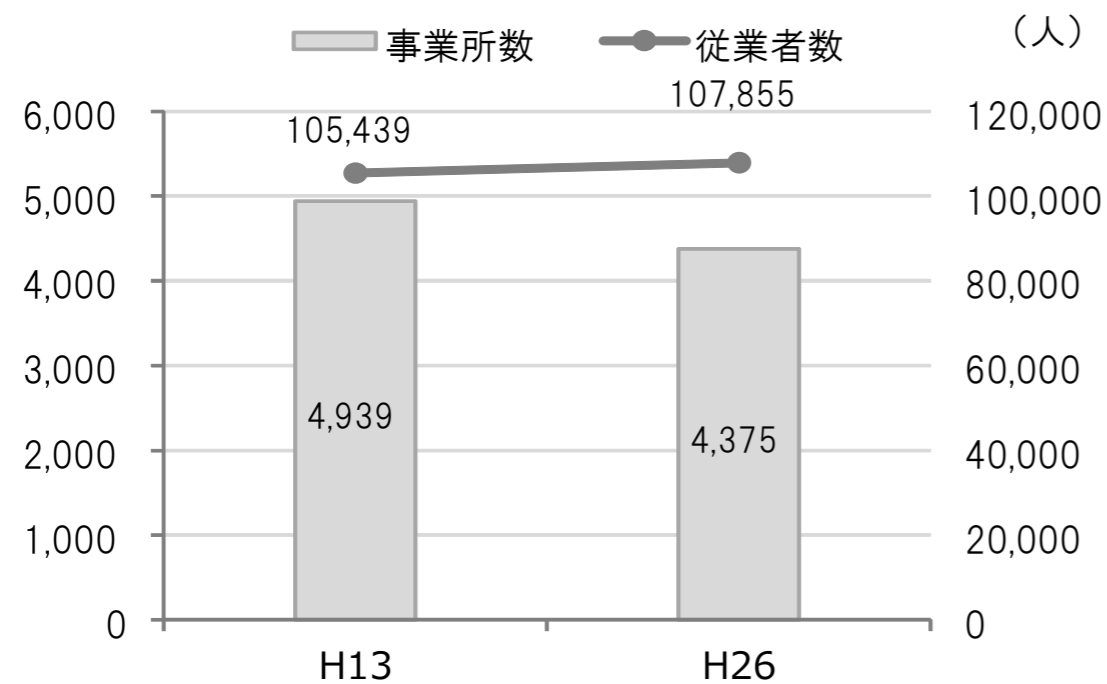
【通学人口内訳】

千代田区全域と比較して、区内への通学人口が少なくなっています。



事業所数・従業員数の推移 経済センサス

事業所数は微増した一方、従業員数は1割以上減少しています。



在勤・在学者の声 千代田区のまちづくりアンケート調査（平成30年6～7月）

▼お気に入りの場所・好ましくないと感じる場所

千代田区内のお気に入りの場所で番町地域と回答した人の割合：5.9%

・主な理由は、「閑静で落ち着いた雰囲気」「風情ある街並み」など

千代田区内の好ましくないと感じる場所で番町地域と回答した人の割合：2.0%

・主な理由は、「閉鎖的な街」「狭隘な道路」など

駅別乗車人員（平成28年） 東京都統計年鑑



駅	乗車人員数 (人/日)
市ヶ谷	180,049
四ッ谷	157,721
麴町	31,485
半蔵門	42,548

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。（承認番号）30都市基交著第44号

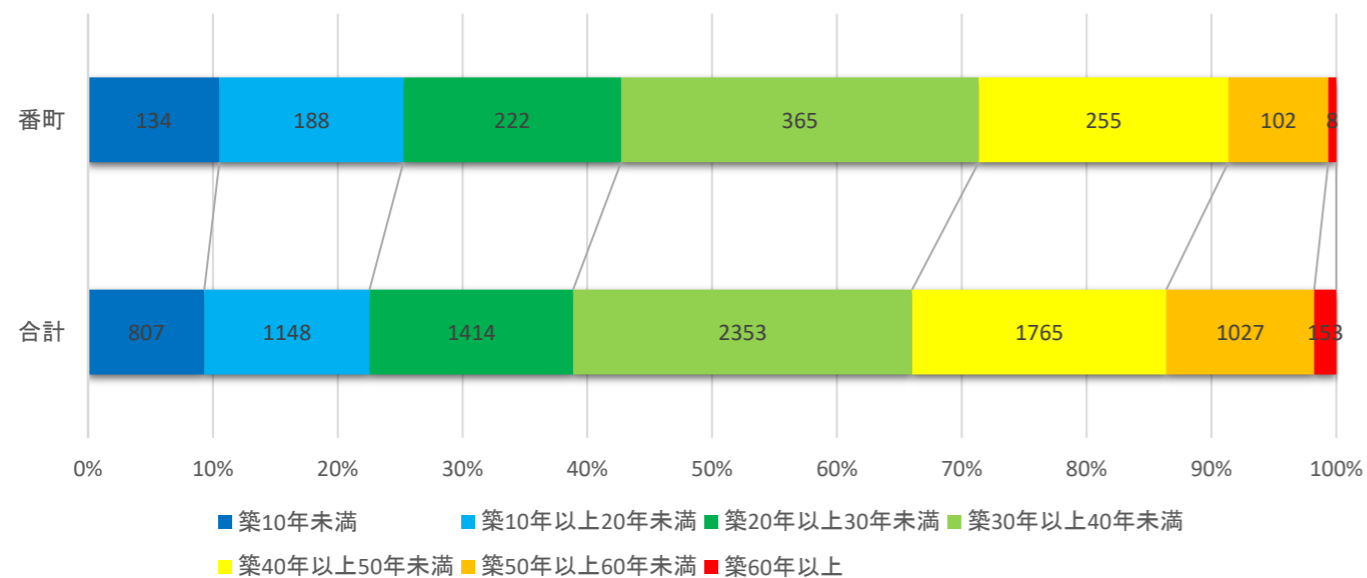
● 防災

建物倒壊危険度 地震に関する地域危険度測定調査報告書（第8回）

番町地域の各町丁は、最も危険度の低い「ランク1」に位置付けられています。

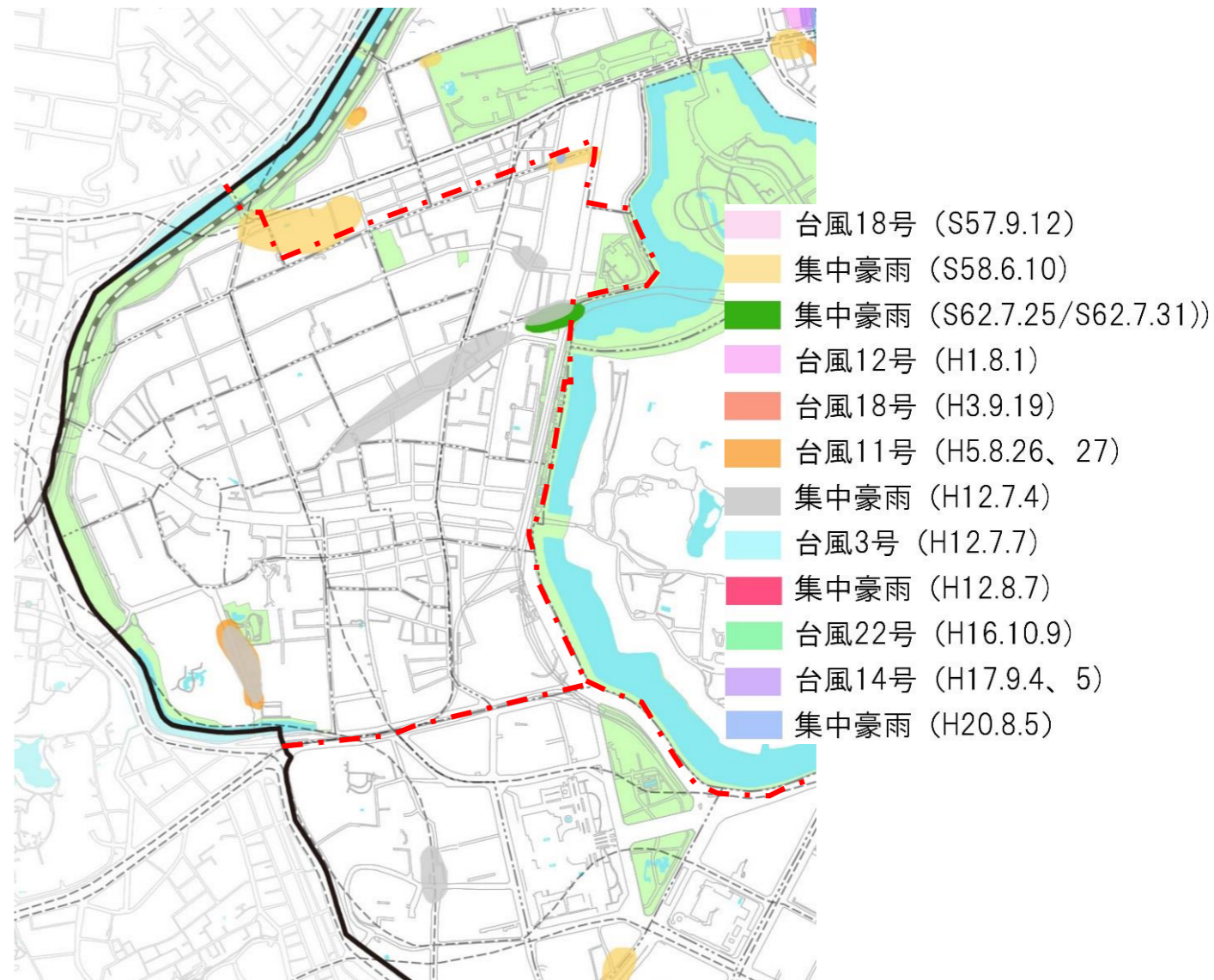


建物の建築年代比率（棟数ベース） 千代田区調査／平成30年12月



水害履歴（～平成20年） 千代田区HP

平成12年7月の集中豪雨による浸水箇所が多くなっています。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。（承認番号）30都市基交著第44号

3 緑と水辺の整備 ～緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに～

● 現行プランの目標と方針

目標 緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに

- 方針 1 今あるかけがえのない豊かな緑と水辺の環境を守る
- 方針 2 身近な緑と水辺をつくり、つなげ、自然に親しめ安らげる場をつくる

● 緑と水辺の整備状況 ※詳細は55ページ参照

1 緑被地・率とも微増（2003年から2018年）

千代田区の緑被地は2003（平成15）年から2018（平成30）年までに約8ha増加し、緑被率は20.4%から23.2%と2.8%の微増にとどまりました。

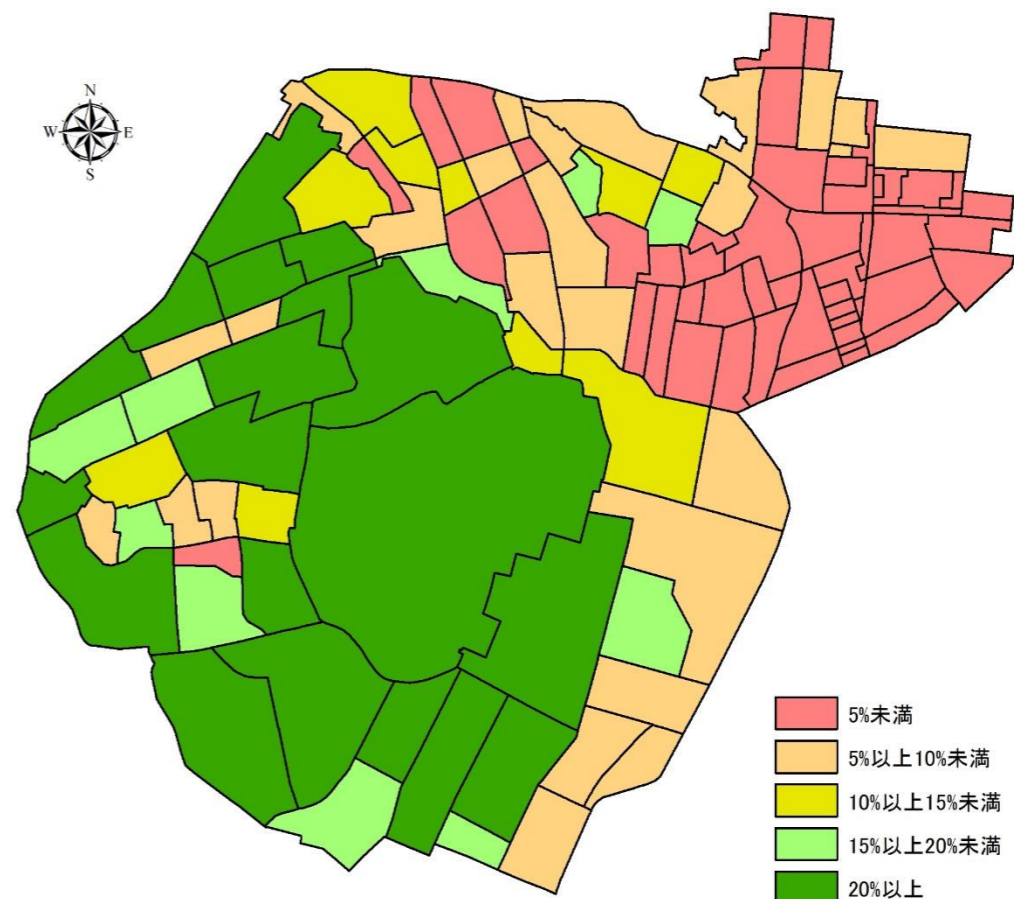
2 緑の偏在が著しい

千代田区の緑被率は皇居・北の丸公園のある富士見地域で最も高く約42.7%）、和泉橋地域で最も低く3.5%となっており、その差は実に約39%となっています。

緑被の推移（2003（平成15）年と2018（平成30）年比較
平成30年度千代田区緑の実態調査

	緑被面積（ha）		緑被率（%）		増減	
	平成15年	平成30年	平成15年	平成30年	緑被面積	緑被率
番町地域	35.12	39.70	20.01	22.57	4.58	2.56
富士見地域	124.53	133.33	39.96	42.71	8.8	2.75
大丸有地域	65.21	79.31	19.68	23.89	14.1	4.21
神田公園地域	2.01	2.74	2.74	3.71	0.73	0.97
神保町地域	4.15	6.92	4.35	7.22	2.77	2.87
和泉橋地域	1.96	3.48	2.03	3.58	1.52	1.55
万世橋地域	3.87	5.28	4.89	6.66	1.41	1.77

緑被の分布 町丁目別緑被率（2018（平成30）年）
平成30年度千代田区緑の実態調査

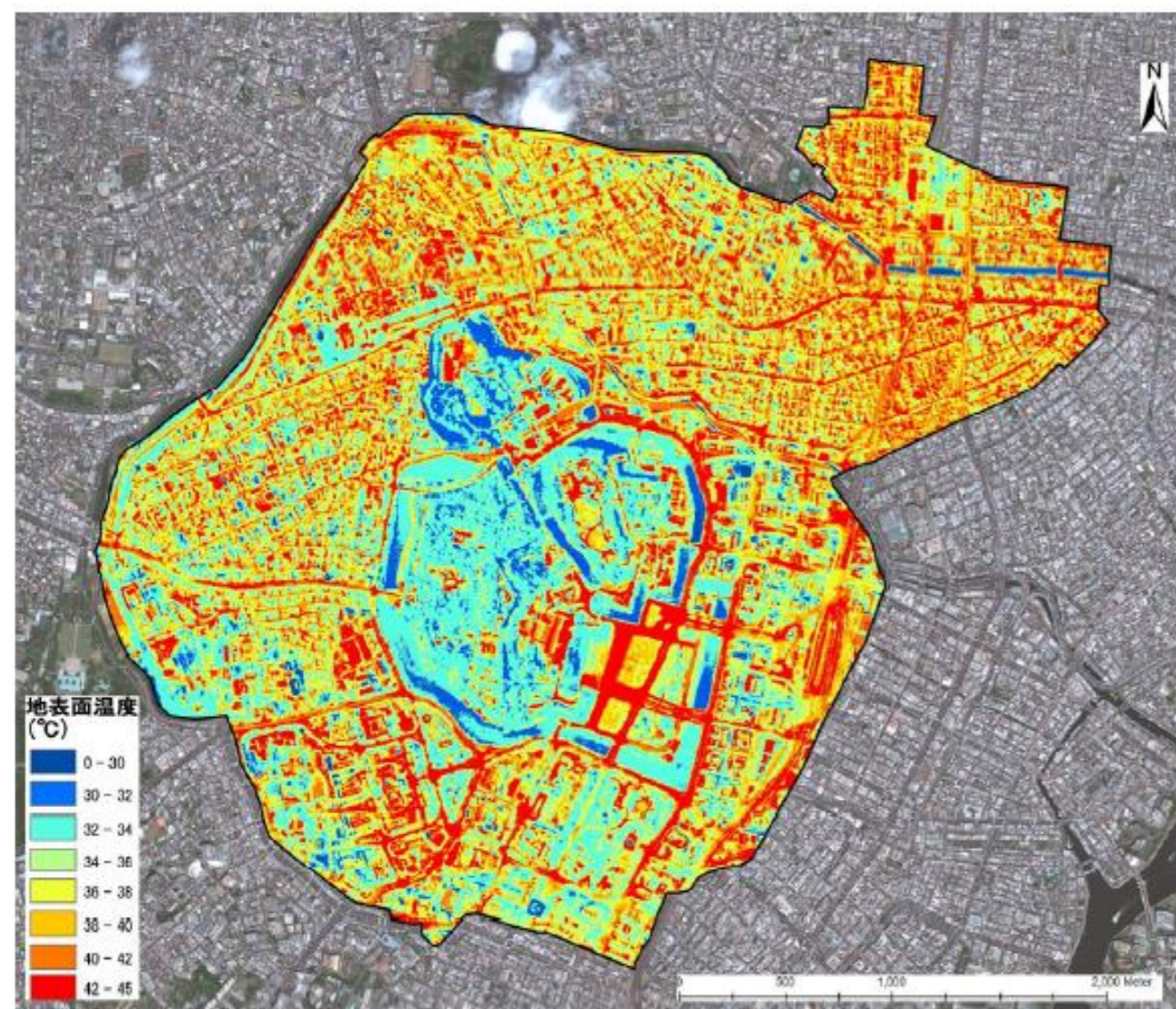


2 ヒートアイランド現象の状況は、一部地域で改善

熱分布観測状況をみると、測定方法が異なるため一概に比較はできませんが、皇居外苑、大手町・丸の内・有楽町地区などで地表面温度が低くなっています。

熱分布の変化 平成30年度千代田区緑の実態調査

【2010（平成22）年度】



【2018（平成30）年度】

